

青少年の挨拶文

今日、私たちは、原爆の犠牲となられた皆様に、10月24日に核兵器禁止条約の批准国が発効要件の50か国に到達したことをご報告するためにここに来ました。この条約は、長年心身ともに苦しい体験をしながらも「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」と訴えてこられた被爆者の方々の思いが結実したものであり、我々は平和を尊ぶ気持ちに共感する人々を更に増やすために、これからも行動していくことを誓います。

私たちの周りには「原爆や戦争は遠い昔の話」と考える人も少なからずいます。しかし、私たちがこれまで当たり前のこととと思っていた「日常生活」が、今年戦争と同様に世界共通の脅威となったコロナ禍を経験する中で、実は当たり前のことではなかったのだと痛感しています。

今の日常は、原爆投下によってつらい体験をしながらも懸命に広島を復興されてきた先人たちの努力の上に築かれたものです。次代を担っていく者として、この日常がこれからも続き、より平和なものとなるように友達の輪を広げるために、これからも活動していきます。

私は、2008年に開催された「中高生平和サミット in Hiroshima」で核兵器のない世界の実現に向けて私たち高校生ができることは何か考え、始まった「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」に参加しています。広島県内外の協力校と共に学校が休みの日に、街頭で署名活動を行ってきました。これまでに約63万筆の署名が集まりました。これからも私たちの仲間を増やし、日本のみならず世界に共感の輪を広げていきたいと考えています。

私は、ユースピースボランティアとして、平和記念公園を訪れる外国人に対して、被爆の実相を英語で伝える活動を行っています。昨年私たちは、アメリカ、フランス、インドなど41か国・地域の232人の外国人を案内する中で、彼らと核兵器について意見交換し、私たち自身学ぶことが多くありました。コロナ禍を乗り越え、これからもガイド活動を通じて被爆者の思いをしっかりと伝えられるよう努力していこうと考えています。

被爆者の思いを広めるために世界中の市民が行ってきた活動が実を結び、核兵器禁止条約の発効が確実となったことは大変嬉しいことです。

しかし一方で、これから核保有国を含め国際社会が着実に核兵器廃絶へと前進していくために、私たち若い世代が何をすべきかという大きな課題を突きつけられたと考えています。

今後も核兵器のない平和な世界を目指して、ヒロシマの心に共感する人の輪を広げていくために、仲間と共に精一杯活動していきますので、どうぞ見守ってください。